

「南極の氷」にさわってみよう

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、8月8日（月）、静岡科学館る・くる（静岡市駿河区）において行われたしずおか科学技術月間のイベント「南極の氷にさわってみよう」で南極観測事業協力と海上自衛隊の活動についてPRを行った。

このイベントは、科学館との共催により今回で6回目となり、子供達が「見て聞いて触って」学ぶことを目的に、砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の氷や現地の石の展示等を行った。

当日は、まず海上自衛官が遠洋航海で海外24か国を訪れた訓練の状況や現地の様子について話をした後、南極観測事業協力の説明を行った。その後、子供たちは実際に氷や石に触れ、氷に含まれた1万年前の空気が弾ける音を聞いたりして遠い南極の世界に思いを馳せた。

参加した子供からは「とても分かりやすい説明で、楽しくとても勉強になった」「夏休みの自由研究の題材にしたいので、南極の氷や石についてもっと詳しく聞きたい」といった感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後もこの様な子供に夢や目標を与える場を最大限に活用して、世界で働く自衛隊の活動に興味や関心を持ってもらえるように努めていく。



三島夏祭りで自衛隊をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、8月16日（火）と17日（水）、三島市の協力により「三島夏祭り」に参加した。

この夏祭りは、毎年約50万人が訪れる大規模なもので、伝統芸能の祭囃子「しゃぎり」や各種音楽演奏等が三島市各所で行われ、大きな賑わいを見せた。

市役所前に展開した自衛隊ブースは、自衛隊車両の73式小型トラックや活動パネルの展示、迷彩服の体験試着コーナー、自衛隊缶バッジのプレゼントを行った。

来場者は、初めて近くで見る自衛隊の車両に興味を示し、小さな子供がいる家族連れは子供に迷彩服を着せて記念撮影をするなど大いに楽しんでいった。

静岡地本は、今後も各イベントに積極的に参加し、地域住民の自衛隊への理解と関心の向上を図り、防衛基盤の拡充に努めていく。

